

**令和2年度 京都府立東宇治高等学校学校経営計画（計画段階）**  
（スクールマネジメントプラン）

学校経営方針(中期経営目標)	昨年度の成果と課題	本年度学校経営の重点(短期経営目標)
<p>自主性を基盤に、社会と関わり、課題を解決しようとする人の育成をめざす。</p> <p>そのような人を「みらいを明るくできる人」と定義し、その育成のために、生徒に次の姿勢を身に付けさせる。</p> <p>(1) 挑戦する姿勢 (2) 周囲と関わる姿勢 (3) 努力し続ける姿勢</p>	<p>平成30年秋に公募制の東宇治みらい会議を設置し、「育てたい生徒像」「身に付けさせたい力」「そのための学び(特に探究的な学び)」「その学びを具現化する『総合的な探究の時間』の内容」などを検討してきた。</p> <p>1年半の議論を経て、東宇治高校がこれから目指す教育の方向性について一定の結論を得ることができ、本年度からの中期経営目標として明示することとなった。</p> <p>令和2年度は東宇治みらい会議が提言した方向性の実現に向けて、第一歩を踏み出す年度とする必要がある。同時に令和2年度は、生徒のさらなる減少を抑えた山城通学圏における東宇治高校の在り方について、中長期的な検討を開始する年度としたい。</p>	<p>中期経営目標に掲げた「みらいを明るくできる人」の育成、及び「3つの姿勢」の涵養のために、本年度は次の目標に重点を置く。</p> <p>(1) 人権意識と社会性の涵養 日々の教育実践が、人としての基本を身に付け、人権意識を備えた人材の育成の場であることを常に意識する。</p> <p>(2) 授業改善 新学習指導要領の理解を進め、「知識・技能の習得」を礎に、「自ら学ぼうとする力」や「知識を活用して問題を発見・解決する力」を育成するため、不断の授業改善を行う。</p> <p>(3) キャリア教育と進路指導 社会への貢献、社会とのかかわりを意識づけるキャリア教育を進めるとともに、高大接続改革などに対応した丁寧な進路指導を一人ひとりに行う。</p> <p>(4) 外部機関との連携 大学や地元小中学校、地域の団体などとの連携を深め、グローバル社会・地域社会で活躍するための素養を醸成する。</p> <p>(5) 総合的な探究の時間 みらい会議の提言実現のため、令和2年度入学生「総合的な探究の時間」運営に注力する。</p>

**重点目標**

<分掌・領域>

A:十分達成できた B:ほぼ達成できた C:あまり達成できなかった D:ほとんど達成できなかった

領域	重点目標	短期経営目標達成に向けての具体的取組	評価	成果と課題
組織・運営	<ul style="list-style-type: none"> <li>適正なサービス処理</li> <li>本質的な「働き方改革」の模索</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>教職員に適正なサービス処理の周知徹底。出退勤打刻システムの100%の定着及び超過勤務者のさらなる削減。</li> <li>短期経営目標の実現に向けた教職員の「働き方改革」の推進。</li> </ul>		
教務部	<ul style="list-style-type: none"> <li>新学習指導要領の教育課程の作成</li> <li>授業改善に向けた取組</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>令和4年度入学生の教育課程の作成を行う。</li> <li>連動して、授業改善に向けた取組やICTの積極的な活用を行う。</li> </ul>		
総務企画部	<p>国際理解教育を探究学習を通じて推進する。</p> <p>状況に応じた情報発信を推進し、積極的な広報活動を行う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「総合的な探究の時間」実施に必要な業務を計画的に行う。</li> <li>グローバルネットワーク京都への取組を継続的に行う。</li> <li>国際理解教育に関して各教科との連携を強化する。</li> <li>広報活動において、Web等を有効活用して情報発信する。</li> <li>学校公開の内容を課題に応じた内容に適宜変更する。</li> <li>PTA・教育後援会と連携し、保護者への理解を深める活動を行う。</li> </ul>		

領域	重点目標	短期経営目標達成に向けての具体的取組	評価	成果と課題
生徒指導部	<ul style="list-style-type: none"> <li>指導内容の統一化</li> <li>学校生活と部活動における、指導基盤の構築</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒指導部が核となり、全教員による生徒指導内容の統一化を図る。</li> <li>生徒が授業等の学校生活と部活動を一貫した姿勢で取り組めるような指導体制の構築</li> </ul>		
進路指導部	生徒が進路学習を通じて、挑戦する姿勢や努力し続ける姿勢を涵養できるように支援する。	生徒の主体的な進路決定のために必要な進路学習を企画運営する。また、入試に対応できる確かな学力をつけるための啓発活動を行う。		
	人権意識の涵養につながるような啓発活動を行う。	人権意識を高めるきっかけとして、人権教育や人権研修を企画運営する。		
保健部	生徒の心身の健康を守り、安心・安全な学校づくりを推進する。	担任との連携を図り、健康上配慮の必要な生徒や不登校傾向など、様々な課題を持つ生徒に対する相談活動を充実させるとともに緊急性・必要性を見極め、カウンセリングを有効活用する。		
図書部	読書活動を通して生徒の情操を豊かにするとともに、広汎な知見や幅広い思考力・積極的な探究心を持った生徒を育てる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>各教科と連携し、図書館の利用および図書の貸出を促進する。</li> <li>年間貸出冊数0冊の生徒の割合を全体の30%未満とし、1人あたりの年間貸出冊数8冊以上を維持し、図書委員会等の活動を通して生徒に対する読書の啓蒙に努める。</li> <li>生徒の積極的な探究活動が円滑に行える環境を整備する。</li> </ul>		
第1学年部	自主性を基盤に、基本的な生活習慣の確立、学習習慣の確立、好ましい生活集団の構築、に積極的に取り組ませる。進路実現に向けて目標を持たせ、努力をし続ける姿勢を培う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>東宇治手帳をはじめ、家庭学習チェックシート等を活用し、一日を朝学習からしっかり取り組めるよう指導する。</li> <li>学校行事、クラス活動、各教科を通じて、他人を思いやり自己の役割を十分に果たさせる指導を行う。</li> <li>様々な場面で進路について話題にすることで、早期に進路希望を明確にさせる指導を行う。</li> </ul>		
第2学年部	進路目標の具体化と、他者と協働して課題を解決する集団づくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>1年次で取り組んだ挨拶の励行、朝学習の定着、東宇治手帳の活用など基礎的な習慣を基に、2年次ではLHRでの進路学習や面談を通して学習意欲を向上させ、基礎学力を定着させる。</li> <li>部活動や学校行事において主体的に参加行動する姿勢と、生徒が相互に認め合う集団を育てる。</li> </ul>		
第3学年部	将来のビジョンを明確にして最後まで継続して努力させ、希望進路の実現に挑ませる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>人や社会との関わりを意識させて、ホームルーム活動や将来の進路についての指導を行う。</li> <li>主体的に学習に取り組めるように、学習室や進学講習を有効に活用するよう促す。</li> <li>学習する雰囲気を持続したホームルーム経営に努める。</li> <li>入試制度が変わることを念頭に置き、情報収集などの準備を早期より指導する。</li> </ul>		
事務部	学習環境の整備並びに希望進路実現の支援	予算の効率的な執行と経費節減に努め、冷暖房等に必要な予算を確保し、学習に集中できる環境を整備する。老朽化した施設設備の改修についても引き続き計画的に実施する。希望進路実現に向けて、就学支援の一層の周知を図るとともに、個別対応も丁寧に行う。		

教科	重点目標	短期経営目標達成に向けての具体的取組	評価	成果と課題
国 語	「大学入試共通テスト」や改訂された学習指導要領に対応するため、積極的な授業改善に取り組む。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グループ討論など対話的学習を積極的に行う。</li> <li>・「考える力」の基礎となる漢字、語彙の学習を丁寧に行う。</li> <li>・授業の中で積極的に文章作成に取り組ませ、記述力を養う。</li> <li>・週末課題など自主学習を促す指導を行う。</li> </ul>		
地歴公民	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の主体的な学習につながるように、生徒の興味・関心・意欲を高め、自学自習の力を身につけさせる。</li> <li>・希望進路を実現させるための学力を育む。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ICT・視聴覚教材の学習指導計画に基づく適切な活用 (A: 予定通り実施できた B: 每学期実施 C: 毎月実施)</li> <li>・JICAエッセイコンテストに対する指導 (A: 個人入賞した B: 学校表彰された C: 全員が参加した)</li> <li>・教科内での授業研究 (A: 毎月実施できた B: 学期に1回 C: 授業公開中に1回)</li> <li>・進学講習の実施 (進学受講者の模試偏差値(全国偏差値)・共通テストの平均が A: 偏差値60・得点75 B: 偏差値55・得点68 C: 偏差値50・得点60)</li> </ul>		
数 学	基礎的な数学の学力を確実に身につけさせ、大学入学共通テストに向けて学んだ知識を活用して問題を解決する力を養成する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎授業の改善やテスト前の補充、小テストの実践などで基礎的な学力を確実に身につけさせる。</li> <li>・定期テストに知識を活用する問題を出し、その対策を通して応用する力を身につけさせる。</li> </ul>		
理 科	科学的な自然観や考え方を身につけ、自然の事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする生徒を育てる。	多様な学力層の生徒から学習意欲を引き出し、継続的に自ら学ぼうとする力を身につけさせる。また、実験や体験的活動に取り組ませ、難易度の高い課題にも挑戦する力を身につけさせる。さらに、グループ活動や課題発表の機会を設け、周囲と関わる姿勢をもって、他者と協議し課題を解決する力を身につけさせる。		
芸 術	芸術の幅広い諸活動を通して、芸術を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、芸術の諸能力を伸ばす。	表現力、鑑賞力を伸ばすために、基礎基本となる技術の習得を重点的に行うとともに、芸術科相互の実践研究の交流を充実させる。		
保健体育	『知』『徳』『体』の調和のとれた生徒の育成。健康の保持増進に必要な活動を自主性を持って自ら実践できる態度を養う。	運動の目的や必要とする技能、知識を理解させ、より深く考えながら運動を実践する生徒を育てる。スポーツを楽しむ態度を育て、「体育嫌い」や「運動嫌い」を減らす。卒業後もスポーツに親しみたいと感じる事のできる指導をし、生涯スポーツに結びつけたい。		
家 庭	自立して家庭生活を営むための基礎的・基本的な知識と技術を身につけさせる。	実験・実習など実践的な学習を通じて、アクティブラーニングの手法を活かし、生徒の興味・関心を高め、理解を深められるようにする。		
英 語	英語によるコミュニケーション能力を強化するための授業改善の取組を行う	<ul style="list-style-type: none"> <li>全学年の4技能のテストを以下のとおり実施する。</li> <li>・リーディングテスト(初見)は年間4回以上</li> <li>・リスニングテスト、スピーキングテスト、ライティングテストは各々年間2回以上</li> <li>英語科研究チームを主に、パフォーマンステストについてのガイドライン及びCAN-DOリストの見直しをする。</li> </ul>		
情 報	高度情報化社会の中にある課題を認識し、情報機器を活用した解決の方法や情報モラルについて考えさせる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新しい情報活用の手段のあり方について、パソコンやタブレット等を利用した情報活用を行う</li> <li>・他教科との連携を図り、様々なICT機器を活用して生徒と教員の技術向上を目指す</li> </ul>		

学校関係者評価委員会による評価	
次年度に向けた改善の方向性	